

11月28日決算説明会 質疑応答(要約)

Q1. 当第2四半期は保険引受利益が黒字で損害率も低位だが、通期予想では保険引受利益が損失で損害率も悪化するが、なぜか。上期に特殊要因があるのか。

- ◆ 保険料のウェイトが上期の方が高いことに加え、支払保険金は下期の負担の方が大きい。こうした季節要因から、上期の損害率は通期に比べ低位となる。
- ◆ また、物件費の大きな部分を占めるシステム開発費等は、リリースベースの計上となる関係から上期よりも下期の負担が大きくなる。
- ◆ 以上から、収支残高が通期では減少するため保険引受利益は損失となる。

Q2. 次期中期計画の保険引受利益、経常利益の増益は、損害率の改善が主因となるようだが、種目別の損害率の改善見込みは。

- ◆ 種目別に損害率の目標値は設定していない。
- ◆ 自動車保険については、アンダーライティングの強化、事故予防を代理店、契約者単位にきめ細かく徹底することで、高止まり傾向となっている損害率を安定化させる。
- ◆ 近年、傷害保険の損害率が悪化傾向となっているが、自動車保険同様に、アンダーライティングの強化に努め、安定化を図る。
- ◆ こうした取組みにより、上期でも支払保険金を減少させることができたので、次期中期計画においても、さらに取組みを強化していく。
- ◆ 主として自動車保険と傷害保険になるが、次期中期計画での支払保険金の減少は、全種目合計で150億円程度を見込んでいる。

Q3. 次期中期計画期間中に自動車保険、傷害保険のレートアップの予定は。

- ◆ 自動車保険は2008年の12月、傷害保険も昨年レート改定したばかりで、次期中期計画期間での料率改定は想定していない。

Q4. そんぽ24の金融機関窓販の当第2四半期までの媒介代理店を通じた契約件数は何件か。

- ◆ 解禁自体は2007年12月からスタートしており、金融機関との委託契約も現時点で30行となっている。
- ◆ しかし、様々な問題から本格的な全面解禁が遅れるなど、実質的にスタートしたのが2008年度からとなり、契約件数を伸ばすまでの本格的な稼働には至っていない。
- ◆ そんぽ24のビジネスモデルは、金融機関からの評価も高く、窓販における募集上の懸念もないことから、今後、本格的な稼働を見込んでいる。

以上